

令和5年度第2回 厚真町津波防災地域づくり推進協議会
議事要旨

○日 時：令和5年8月8日（火）14:45～16:15

○場 所：厚真町厚南会館 1階 大集会室（勇払郡厚真町字上厚真 219 番地）

○出席者一覧：

定池会長	阿部委員	村上委員	西山委員
有村副会長	大橋委員	工藤委員	中瀬委員
館山委員	吉岡委員	澤山委員	鈴木委員
保田委員	堂前委員	平澤委員（代理）	西野委員

○次第

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 第1回津波防災地域づくり推進協議会の結果概要
 - (2) 第1回津波防災住民懇談会の結果概要
 - ① 津波防災住民懇談会の結果概要
 - ② サーフィン利用者懇談会の結果概要
- 3 議事
 - (1) 津波防災地域づくり推進計画（骨子案）
 - (2) 事業・事務の検討
 - ① 庁内・関係機関の事業の確認結果
 - ② 津波防災住民懇談会を踏まえた津波防災対策（素案）
 - (3) その他
- 4 閉会

○配付資料

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿・配席図
- ・ 委員名簿
- ・ 資料1 協議会進行資料
- ・ 資料2 津波防災地域づくり推進計画（骨子案）
- ・ 参考資料1 令和5年度第1回 厚真町津波防災地域づくり推進協議会 議事要旨
- ・ 参考資料2 別添資料

○要旨

1 開会

- ・厚真町西野副町長より挨拶
- ・定池会長より挨拶
- ・協議会委員交代に伴う委嘱状交付

2 報告

(1) 第1回津波防災地域づくり推進協議会の結果概要

(2) 第1回津波防災住民懇談会の結果概要

- ① 津波防災住民懇談会の結果概要
- ② サーフィン利用者懇談会の結果概要

- ・事務局より、資料1の説明

●定池会長コメント

- ・第1回懇談会では住民やサーフィン利用者から活発な意見があった。住民だけではなく来訪者への津波避難対策の必要性や、自然環境への配慮、災害時だけではなく平時も含めたフェイズフリーの観点での意見などがあった。

3 議事

(1) 津波防災地域づくり推進計画（骨子案）

(2) 事業・事務の検討

- ① 庁内・関係機関の事業の確認結果
- ② 津波防災住民懇談会を踏まえた津波防災対策（素案）

- ・事務局より、資料1、資料2の説明

- ・会議進行資料の37ページ、41ページ、44ページに記載されている「第2回津波防災地域づくり推進協議会」の日程を8月9日から8月8日に訂正。

○質疑応答

●室蘭建設管理部苫小牧出張所

- ・上厚真の道道や厚真川の整備や維持管理を行っている。事務・事業で示した事業について、避難路として整備を行っているものではないが、避難路として位置づけることについては問題ない。
- ・避難困難区域の定義はどのように位置づけているか。新たに津波避難施設を整備する提案をされているが、施設整備をする際、補助事業を活用されると思うが、採択の条件となり得るので、要望に向けて整理しておいた方がよい。

(事務局) 津波避難の対象は、浸水想定区域内の世帯と事業者、フェリーターミナル利用者、サーフィンなどの海岸利用者、野原公園の利用者になる。海岸から一番近い避難場所は高規格道路の2箇所のみだが、津波到達時間が最短44分のため海岸から2000mはあり、高齢者の徒歩避難には難しい距離になっている。町地域防災計画の津波避難計画では、JR日高線以南を避難困難区域に位置付けており、現在は自動車避難を含めた避難困難区域を再度検討している。

- ・地区懇談会の意見を確認すると、徒歩避難だけで自動車避難を認識していない地区があるかもしれない。地域ごとの避難方法を周知した方がよい。
- (事務局) 住民は高齢者が多く、自動車避難が大半とみられる。地区懇談会では、津波により家を失うと残る資産は自動車しかなくなることもあり、自動車避難したい意見があった。一方で、地震により道路が通行できなくなると避難できなくなる可能性もあるため、徒歩避難が可能な範囲で避難先を確保するなど、避難困難区域の見直しを進めているところだ。

●浜厚真自治会

- ・津波浸水区域内の住民としてあえて発言したい。
- ・津波浸水区域内の人口は、太平洋に面する市町村の中で最も少ない。70歳以上の高齢の居住者が多く、今後、人口が増える見通しはない。人の命は費用対効果で測れるものではないが、何億円もかけて津波避難施設を建設して一人も死なせないことになるのか。協議会の参加者にも浜厚真地区に面と向かって言えないだろうが、税金の無駄遣いとならないように対策の検討と理解が必要ではないか。沿岸部の人口が少ない厚真町において、沿岸部に多くの人口が居住する苫小牧市などで避難先を建設するものと同じように考えるのは違うのではないかと懸念している。

(事務局) ご指摘の懸念はよく理解できる。第1回懇談会では、浜厚真地区以外の地区やサーフィン利用者の方々から、浜厚真地区に津波避難施設が必要との声が多かった点は理解をいただきたい。

(定池会長) 地区懇談会では、浜厚真地区に居住する方々のためだけではなく、来訪者のためにも津波避難施設が必要という意見や、浜厚真地区以外の地区から浜厚真地区に避難施設が必要との意見があった。

●社会福祉法人 厚真町社会福祉協議会

- ・浜厚真地区に避難施設を建設するにしても、居住者が最優先と考えていたが、現地確認で改めて現場を訪れ説明を聞くと、サーフィンなどの海岸利用者や野原公園のサッカー場利用者などにとっても避難先が必要と理解した。
- ・道道上厚真苫小牧線は苫小牧市内には海拔表示が目につくが、厚真町内には少ないように感じる。来訪者にとっては津波が起こったときに海拔表示が目安になるので設置ができるとよいのではないかと。

●防災マスター代表

- ・自治会で高齢者や単身者が避難する訓練をすると、緊急時ではないこともあり、必要なものを持参しないことが多い。実際に災害が起こると貴重品などをすぐには持ち出せず探ることになり避難の時間ロスになる。そのような状況で避難の支援に行くと時間がかかり避難しきれずに被害にあることも考えられる。平時から避難の際に必要なもの、大事なものをまとめておくように啓発が必要だ。

(定池会長) 津波防災対策のソフト施策に繋がる提言であると受け取った。

●新日本海フェリー株式会社 苫小牧支店

- ・フェリーターミナルの屋内には海拔表示をしているが、車両が待機するエリアには海拔表示は少ないかもしれない。取組みが可能な検討したい。

- ・6月11日に浦河沖を震源とする地震が発生した際には訓練の成果が活かされた。出航を待つ利用客に対して地震発生や出航時間の連絡などは円滑に行うことができた。厚真町への連絡については課題となっているので対応を検討したい。

●胆振総合振興局地域創生部

(定池会長) 地区懇談会ではむかわ町からの避難について連携を求める意見があった。

町域をまたぐ調整が必要になる可能性があるが、北海道が自治体間の調整に携わった事例はあるか。

- ・町域をまたいだ連携を支援した事例はないが、市町の連携支援は可能だ。むかわ町との連携が必要な場合に検討は可能だ。

●有村副会長のコメント

- ・資料1は33頁で初めて津波避難施設を示しているが、施設の整備により避難経路などの避難の前提が変わることになる。避難対象者は住民などを214名としているが、イベントなどが開催されると地区の滞在者が500人増え、すべてを対象とした施設整備とすると、使用しない期間が長くなり、平時の活用が課題になる。まちづくりに活かす意見があったが、スポーツなどと地域振興を絡めた整備は望ましい。
- ・徒歩避難ではなく、自動車避難を進めるにはルール作りが必要だ。先日も室蘭市が自動車避難の訓練を行ったが、自動車避難の際に同乗者を途中でピックアップする際に時間がかかり、課題が残った。
- ・1～3期で時期を設定しているが、整備や施策実施スケジュールの具体化が必要になる。2期目に位置付けられているサッカー場付近の津波避難施設はまちづくりのコアになる可能性がある。

●定池会長のコメントとまとめ

- ・津波避難施設の整備により、避難経路や避難困難区域などの津波避難計画が変更になることから、今後は対策としてのソフト面、ハード面の変化を示しながら議論ができるとよい。1～3期の施策対応について、短期と中長期の対策を並行して検討していく必要がある。

4 閉会

- ・第3回協議会は、11月15日に厚南会館において開催予定。
- ・津波防災地域づくり推進計画などについて、委員、関係機関に対して事前に確認を依頼する予定。

以 上

◆会議等写真



令和5年度第2回 厚真町津波防災地域づくり推進協議会 検討状況



厚真町津波防災地域づくり推進協議会前に実施した現地確認の状況